

標高500メートルの山のてっぺん。
世羅高原の畑から、
農薬、化学肥料を使わずに育てた採れたての野菜をお届けします。

観測史上、最も遅い梅雨入り

6月26日、中国地方は平年より19日遅い梅雨入りをしました。1968年の6月24日という記録を、51年ぶりに塗り替えました。世羅の5月の降水量は、43mm。6月に入っても雨の日は少なく、100mm程です。

7月になると、冬に収穫するキャベツの種をまきます。梅雨明けを待って、大根や人参、白菜など、冬の野菜を植える畑の準備を始めます。



〈梅雨入りした後の梅雨の晴れ間〉
ナスは“となりの畑”と“南の畑”の2か所に植えています。
ナスとナスの間には、パセリの苗が植わっています。

三育学院の中学生が畑に

「3ヘクタールって、どのくらいですか？」
「ハウスって、どのくらい高いんですか？」
「どうして農協に出荷しないんですか？」

6月18日の午後、三原市大和町にあるキリスト教系の学校、三育学院の中学一年生21人が、野菜の栽培の勉強で畑にやって来ました。Tonchanは三育小学校出身。Tonchanにとって、食べるものの大切さなど、その基本になる考え方は、三育小学校で育まれました。

北海道、千葉、大阪など、全国から集まってきている中学生を前に、どんな野菜を作っているか、なぜ脱サラをして野菜作りを始めたか、三育で学んだことが役立っているかなど、Tonchanが話をしました。つい、「～じゃねえ」としゃべってしまった言葉に、「あっ、広島弁だ！」と反応されてしまった私。でも、実は私は、名古屋出身だったのですよ～。



〈たくさんのハチたちが飛び回る〉
今年のコリンキーは、こぼれ種から生えたヒマワリと同居しています。
お天気のいい日には、たくさんのハチたちが、にぎやかに飛び回っています。

〈7月の野菜〉

□露地の畑では、縮緬キャベツ、ピーツ、人参間引き菜などが収穫中。
6月末から、キュウリ、韓国カボチャの収穫が始まりました。
初旬には、コリンキーの収穫が始まります。
中旬頃からは、モロッコ豆、ナスなどの収穫が始まる予定です。

□ハウスの中では、ズッキーニ、人参が収穫中。
下旬頃からは、ピーマンの収穫が始まる予定です。



〈寒冷紗をかけて日よけをしました〉
5月に定植したサトイモの苗が根を張るまでしばらくの間、寒冷紗をかけて日よけをしたおかげで、葉が傷むことなく順調に大きくなってきています。
6月末に、一回めの草取りをしました。

- 山本ファミリー農園の日々の様子は、フェイスブックで。
- 畑の野菜で作った“うちのごはん”の写真は、山本ファミリー農園のブログで。
http://blog.goo.ne.jp/tonchan_sy/

土について

私たちの畑

私たちの畑は、世羅台地の西側、標高が550mの小高い丘陵地のでっぺんにあります。

旧世羅西町と大和町の町境にあり、古い地図と現在の地図を比較してみると、山頂付近を切り崩して谷を埋めて畑を造成したようです。私たちの畑は、ほとんどが切り崩した部分であることがわかります。

入植時の説明だと、地表から30cmは除礫(大きな石を取り除くこと)した土があるとのことでしたが、耕してみるとまさにその通りで、地表から30cm下には大きな岩があったり、もろく風化した岩や、赤色や黄色・白色の粘土の塊があったりします。

入植した当時は、今に比べて土の色はより赤く、湿った土は重たかった気がします。雨が降れば、ぬかるんで沼のようになり、トラクタが埋まって重機で引き揚げたこともありました。土中の水が抜けるのにも時間がかかり、雨後の数日は、畑に入れなかったです。湿っているときは柔らかい土ですが、ひとたび乾燥すると硬く固まり、スコップを刺すのもやっとなといった状態になっていました。また、土壌のPhは4くらいで、石灰などでの矯正が必要な状態でした。

20数年作物を作り続けて、堆肥や、緑肥、残渣をすきこみ続けてきたおかげなのか、いくらか土質もよくなり、トラクタが埋まって動けなくなることや、雨の後いつまでも水たまりがあるといったことはなくなりました。しかし、土壌のPhはいまだに低いところが多く、石灰資材の投入は欠かせないです。

土壌の種類

日本ペドロロジー学会によると、土壌は大きく10種類に分類されています。

赤黄色土

畑のある地域の土壌は、「赤黄色土」その中でも「粘土集積層」をもつ「風化変質赤黄色土」に分類されています。その特徴は、「有機物含量が低く、砕土に困難性があり、全般的に塩基の溶脱が激しく強酸性を呈する土壌が多く、地力的に劣る土壌である」とのことです。

この性質の為、今でも土づくりに苦労しています。

未熟土

最近、広島県で起こった豪雨による土砂災害で知られるようになった、真砂土の多い土壌は、「未熟土」、詳しくは「花崗岩質陸生未熟土」に分類されます。

花崗岩が風化して全体が真砂土となっていて、層状の構造が見られない為、「未熟」と呼ばれます。

黒ボク土

畑に適した土壌には、北海道・東北・関東・九州に多く見られる、火山灰に由来する「黒ボク土」があります。他の土壌と比べると有機物の含有量が非常に多く、団粒構造をつくりやすいため、保水性や透水性が良く、緻密度(土の硬さ)が低いので耕起が容易です。「黒ボク土」は、日本の国土の31%程度に分布し、国内の畑の約47%を覆っています。

今回は、畑の地質について調べてみたいと思います。



農地造成前の地形図。旧世羅西町と旧大和町の町境に、小さなピークがあったようです。



農地造成後、入り組んだ等高線がなくなり、なめらかになっています。緑の枠で囲まれた部分が、私たちの畑です。約3haあります。



畑を1mくらい掘ったら、硬く白い縞(亀裂)の入った岩が現れます。一部は粘土のようになっていますが、それ以外の部分は硬くてスコップが刺さりません。

日本の土壌

【造成土】	人工物質による埋め立て、大規模な客土、造成に伴う土壌
【有機質土】	湿生植物の遺体が、過湿のため分解を免れ厚く堆積した土壌
【黒ボク土】	主として母材が火山灰に由来し、リン酸吸収係数が高く、容積重が小さく、軽しょうな土壌
【ポドソル】	漂白した層と腐植または鉄が集積した層の層序をもつ土壌
【沖積土】	現世の河成、海成、湖沼成沖積低地の土壌
【赤黄色土】	有機物の蓄積が少なく、塩基飽和度が低く、風化の進んだ赤色または黄色の土壌
【停滞水成土】	停滞水または地下水による影響を受けた、台地、丘陵地、山地の土壌
【富塩基土】	風化変質層または粘土集積層をもち、下層土の塩基飽和度が50%以上の土壌
【褐色森林土】	黒ボク特徴および赤黄色特徴を持たない、褐色の次表層位をもつ土壌
【未熟土】	土壌断面内で層位の発達が認められないか、あるいは非常に弱い土壌